

提案の  
概要



A. プロジェクト全体の概要

近年増加傾向にある留学生のための日本語講座とセミナー、教室。  
そして学生同士の交流の場として行われるパーティなどに使われる国際センター。

B. 提案する木造化・木質化の取り組み内容の概要

準防火地域内の準耐火建築物で梁・桁の木造現しに取り組むということ。  
壁柱構造のフレームによる大空間の実現。乾式工法による組立。  
ほぼ全面の仕上げ面に単層積層材 (LVL) の積層面をあらわす意匠が特徴的である。

C. 提案のアピールポイント

構造面・意匠面で LVL 材を大規模に用い、繊細で日本的なる意匠を想起させる建築。  
密集住宅地にある大学キャンパスという立地特性を踏まえ、工期短縮の点から木造で準耐火建築をつくるという選択。



外観

評価の  
ポイント



留学生に対する日本語講座、セミナー、日本の学生との交流の場となる大学の国際センターの建築。主要構造となる壁柱及び梁に国産カラマツを使用した LVL 壁柱構造としている。構造の壁柱は、LVL のストライプ状の積層面を積極的に見せるデザインとし、また、非耐力壁は、LVL 材を縦格子状に分割使用することで、それぞれ異なる表情を演出する計画となっている。高耐力が必要となる LVL 壁柱の柱脚部にはラグスクリューボルトと補強用ビスを併用している。今後普及が期待される壁版構造の参考事例となることが見込まれる。



### 先端性・先進性

- LVL の特性を活かした構造形式の提案。
- 従来の軸組構法以外の準耐火構造としての都市型木造建築の可能性の提案。
- 積層面をデザインとして取り入れた木質材料の使用方法的提案。
- 大断面木造において、高強度・高剛性が求められる柱脚部の提案。

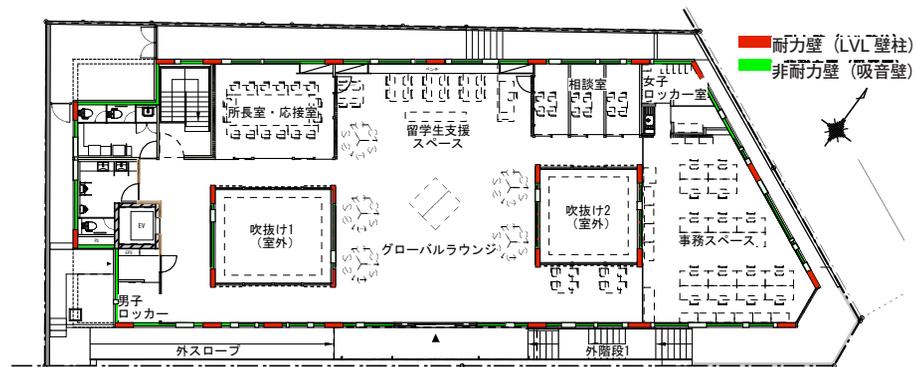
### 波及性・普及性

- LVL ならではの木質材料としての有効性をアピールできる。
- 壁版構造の事例としての役割を期待できる。
- 今後高強度・高剛性が求められる壁版造の柱脚部に対しても利用できる。
- 大断面木造においても、既製品を適切に使用することで、経済的かつ汎用性の高い接合方法が可能となる。

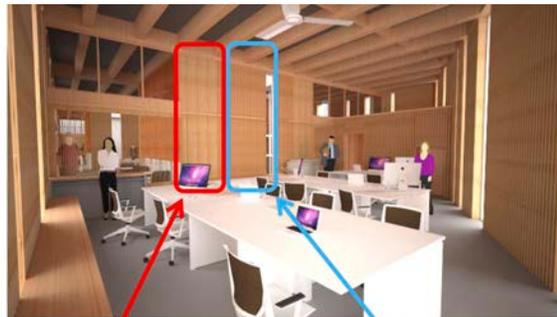
### 使用する木材、木質建材の特徴

- 主要構造となる壁柱・梁は LVL (国産カラマツ) とする。
- 構造用 LVL は高剛性、高強度の木質材料であり、長尺の製品を製作できる。
- 単板の積層面はそれぞれがストライプ状の繊細なテクスチャーを有する。
- 燃焼時に製材・集成材に比べて炭化速度が遅く耐火性能が優れている。

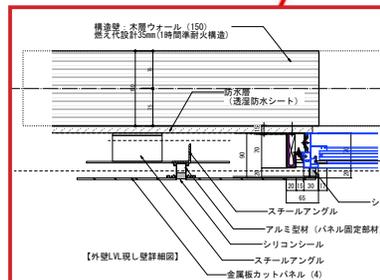
平面図



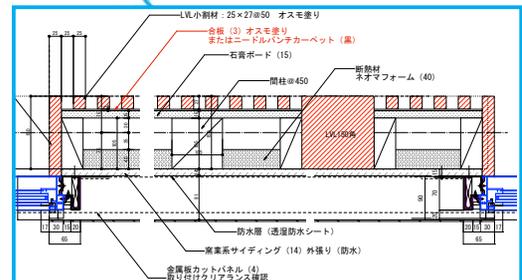
軸組図



内観パース

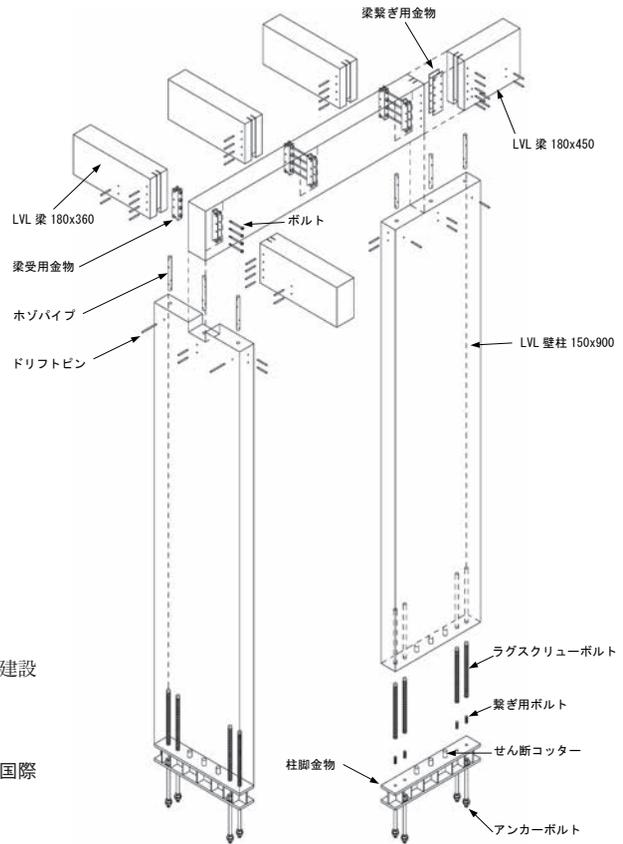
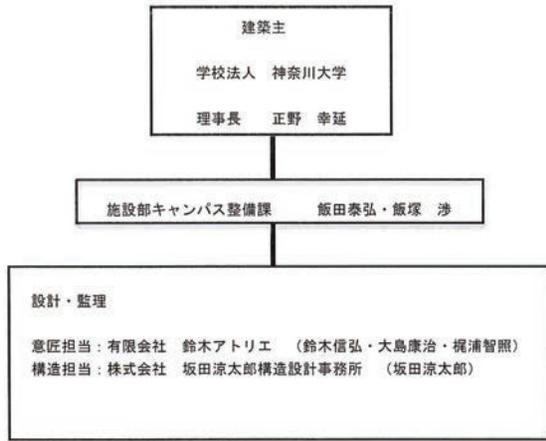


壁柱

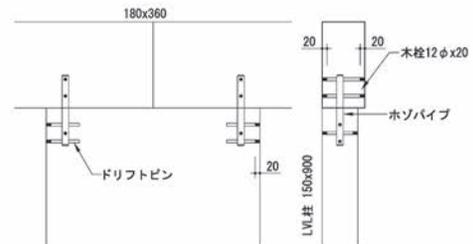
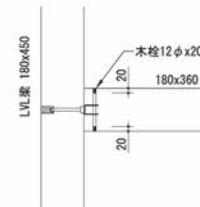
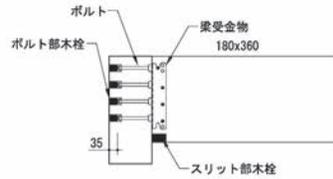


非耐力壁

事業の実施体制



L V L 壁柱の接合部



L V L 壁柱接合部の防耐火仕様

プロジェクトデータ



提案者（事業者・建築主）、設計者・施工者、建設地は扉頁参照

建物名称：(仮称) 神奈川大学横浜キャンパス国際センター

主要用途：学校

主要構造：木造 軸組構法 枠組壁工法  
丸太組構法 その他 (LVL 壁柱工法)  
鉄骨造 鉄筋コンクリート造  
鉄骨鉄筋コンクリート造 その他

防火地域等の区分：防火地域 準防火地域  
法 22 条区域 その他の地域

耐火建築物等の要件：耐火建築物 準耐火建築物 (60 分耐火) 準耐火建築物 (45 分耐火) その他の建築物

敷地面積：606.51㎡

建築面積：421.61㎡

延べ面積：779.82㎡

軒 高：8.100m

最高の高さ：8.733m

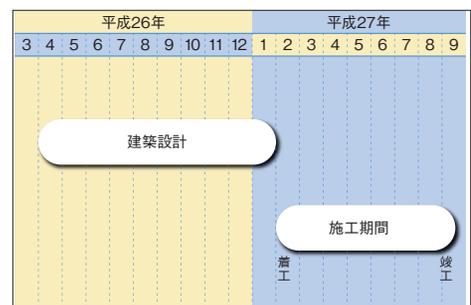
階 数：地上 1 階、地下 1 階

事業期間：平成 26 年度～ 27 年度

補助対象事業費：172,060 千円

補助金額：25,809 千円

事業スケジュール



採択事例 36 (仮称)神奈川大学 横浜キャンパス  
竣工報告 国際センター



Y字路のコーナーに建つ外観の夕景



南側全形



1階エントランスホール（グローバルラウンジ）



1階エントランスホール



吹抜けを囲む廊下



屋内廊下